令和５年度福島県文化振興審議会議事録

１　日　時

令和６年２月 13 日（火）10 時 00 分～12 時 00 分

２　場　所

杉妻会館　３階　百合

３　出席者

（１）文化振興審議会委員　10 名（50 音順）

浅川なおみ委員、五十嵐哲矢委員、岡部兼芳委員、片野一委員、國分球子委員、
杉浦友治委員（オンライン出席）、田仲桂委員、田村奈保子委員、
古谷かおり委員（オンライン出席）、矢部佳宏委員（オンライン出席）
※瀬谷真理子委員は欠席

（２）事務局　６名

文化スポーツ局長、文化振興課長、主幹、課員３名

（３）関係課　５名

地域振興課主幹、生涯学習課課長、観光交流課総括主幹兼副課長、社会教育課主幹、
文化財課専門文化財主査

４ 内 容

（１） 開会（司会：佐々木文化振興課主幹）

（２） 挨拶（永田文化スポーツ局長）

（３） 定足数確認

司会より、委員10名が出席しており、福島県文化振興審議会規則第３条第３項の規定により会議が成立することを確認。

（４）議事録署名人の選任

片野会長の指名により、田仲委員と田村委員が選任された。

（５）議事及びその他

事務局（文化振興課長）より、資料「福島県文化振興基本計画の進行管理について」に基づき施策体系順に、令和５年度の主な事業の中でも中心的な事業の取組状況と、指標の状況を説明した。その後、各委員から質疑・意見等をいただいた。

事務局説明以降の発言内容は、次のとおり。

【片野議長】

名簿順でまずは浅川委員から御意見をお願いいたします。

【浅川委員】

コロナ禍で、伝統芸能の披露や活動ができませんでした。県南の学校では伝統芸能を学年ごとに学んでいく活動を行っていましたが、３年間そのような活動ができず、学べなかった世代が生じ、取り戻すことが難しい状況があります。

また、文芸や絵画で応募に対する選定があると思うのですが、今後、高校生がＡＩを参考に作品を作ったときに、分からないうちにＡＩを使って作品を作っていいのかどうか、ＡＩを使ったかどうかまで書かせるところがあるかどうか、非常に不安に感じました。音楽の演奏でも間違っていた部分をデジタル処理で修正できますし、本物を参考にしたとはいえ、自分で考えたとはいえ、参考にしたものはどこまでで、どのようにわかるのかも含め、その辺の見極めが作品については難しい中で、審査をしていかなければいけないと思いました。

美術館の企画展は、なかなか海外に行って見たりすることはできないところ、本物の作品を間近に見られる良い企画であると思っています。その先にある話をしますと、作品が置いてある美術館や音楽であればホールで、生で本物を見たりするのが最終的には一番よいと思っています。というのは、例えば、相撲の海外巡業や歌舞伎の海外公演など、海外で見ることもできますが、日本に来て国技館で見る相撲、歌舞伎座で見る歌舞伎を、最終的には海外の方にも見ていただきたいと思います。県立美術館の企画展で海外から来た作品も、本当はどんな空気で、どんな気温で、どんな気候のところにあった作品なのかも分かっていただければ良いのかなと思います。

【片野議長】

どうもありがとうございました。進め方ですが、事務局ですぐに答えられるものについてはコメントをお願いしたいと思います。

【文化振興課長】

伝統芸能の継承につきましては、引き続き、ＮＰＯの「民俗芸能を継承するふくしまの会」と協力して、各学校との連携や体験機会の確保などをさらに工夫しながら進めていきたいと思います。

ＡＩにつきましては、文学賞や県展においても、審査員の方々からもどうやって対応していくかいろいろと御意見をいただいています。さらに、現在、文化庁においてＡＩの規制をどうしていくか議論しているところですので、その動きも見ながら検討していきたいと思います。

美術館の企画展につきましては、県ではゴッホの展覧会を予定しており、是非これをきっかけにして、より多くの方々が美術館を訪れるなど、文化芸術に関心を持っていただけるような取組を考えていきたいと思います。

【片野議長】

ありがとうございました。それでは、次に五十嵐委員、お願いいたします。

【五十嵐委員】

文化振興基本計画でいろいろな指標が設定され、令和４年度から令和 12 年度までの目標値が記載されていますが、日本全体の人口が今後非常に減少し、人口問題研究所からも 2050 年までの人口減少の具体的な予測が公表されています。福島県の人口も、私の記憶では昔は 220 万人程度であったかと思いますが、現在は 180 万人、この基本計画に絡めると目標年度の令和 12 年度は多分 160 万人程度まで減少しているのではないかと考えられており、全体の人口が減っていく中で、文化芸術の振興を図り、具体的な数値目標を立てていくことについては、大変難しい問題が今後とも生じていくと思います。特に、昨日の新聞で、産業人口の担い手も減少していくとの記事があり、地域の観光関係を担っている方々そのものが減ってしまいます。その結果、地域の力が弱まっていくことが前提となってくると思います。そのような中で文化芸術の予算を確保して、県民の方々に活力を持ってもらうことは非常に心強いものと感じています。

資料を見て、私が素晴らしいなと思ったのは、９ページの「障がい者の社会参加促進事業」、岡部委員が関わっておられる「はじまりの美術館」で障がい福祉課と連携して取り組んでおり、県の施策と地域の施設が連携、協働しており、うれしく感じています。地域には市町村等の美術館が数多くありますので、それらの施設との連携も今後進めてもらいたいと感じたところです。

【片野議長】

どうもありがとうございました。それでは、事務局からコメントあれば、よろしくお願いいたします。

【文化振興課長】

御意見につきましては、今後の参考にさせていただきます。特に障がい者の芸術活動については、保健福祉部、教育庁など関係部署と連携しながら、芸術活動の推進や鑑賞機会の確保に努めてまいります。

【片野議長】

ありがとうございました。それでは、岡部委員お願いいたします。

【岡部委員】

１つ目は、五十嵐委員から話がありました、障がい者の文化芸術の振興についてこれからも進めていきたいと思いますが、専門的な取組だけではなく、基本計画では８つの施策が挙げられているように、どの項目に対しても誰もがアクセスできる、文化に誰もが気軽にアクセスできる、そういう状況が整えていくことが最も大事なことだと考えております。専門性に特化せず、施策体系の下に記載があるとおり、「誰一人取り残さない」との観点が全体を覆うようになっておりますので、どのような取組も誰もがアクセスできるような御配慮が大事であり、取組を行う関係部局や担当の施設などに周知をお願いできればありがたいと思います。

２つ目は、地域への誇りや愛着を高める取組をどんどん推進していただければという思いが強くあります。先ほど、話がありましたように、人口が減少する中で、福島県の底力を維持していくためにも、自分の出身県や生活している県へ愛着があって、地域の底力が広がっていくのが何より大事だと思います。先ほど、説明がありました「100 年フード」の認定件数が全国１位だと初めて知りました。具体的にどういう品目が認定されているかなど、どんどん広く発信していく機会を設けていただければと思います。この件だけに限りませんが、文化行政担当以外の部局と連携して効果的に発信していくことが大事だと思っております。

以前にも話をしておりますが、推進していく施策と指標がちょっと噛み合っていない部分があるように感じています。もちろん、県民の意識調査とか、定期的に推計していくものとして質問項目が決まっているものもあり、それに当てはめて見ていく必要はあると思いますが、その部分が具体的な目的としているものと評価がもう少し噛み合っていた方がよいと思います。また、入館者数などの人数だけで文化行政は測れるものでもなく、実際に来館される方のニーズがあって、どのような思いを持ち帰って、それを自分たちの生活にどのように反映されていくか、計画の目標である「人と地域が元気にあふれ、心豊かなふくしまへ」のとおり、どれだけ地域が元気になって、皆さんが心豊かになっているのかを総合的に測れる指標があるとか、関係性がわかりやすい指標があるとよいのではないかと思いました。

【片野議長】

どうもありがとうございました。次に國分委員、お願いいたします。

【國分委員】

私は、民俗芸能復興サポート事業に携わっております。浅川委員からも発言ありましたが、コロナ禍の３年間は民俗芸能に非常に大きな影響がありました。地域の祭礼行事がコロナ禍で中止になってしまい、そのため、祭礼で集まる資金が得られなかったことで、運営資金が不足する状況が３年も続いてしまった団体が多くあり、コロナ禍が明けましたが、以前と同じようには活動できていないところがあります。また、コロナとインフルエンザの影響で今年度も中止となった行事もあり、さらに、コロナ禍の３年間は人が集まることの制限や自粛で、民俗芸能の練習ができなかったとか、地域の方と顔をあわせることができなかったなど、コロナ禍の影響は大きかったなと感じております。そのような中でも、地域のために、そして、地域の人々の絆を深めるために、一生懸命頑張っている民俗芸能の団体もたくさんありますので、そのような団体を、民俗芸能復興サポート事業を通して支えながら、福島県の文化振興を進めていきたいと考えております。

昨年度の進捗状況と比べて少し数値が下がっている部分が見受けられますが、やはり、物価の高騰が非常に影響していると感じております。民俗芸能の団体も影響を受けており、物価高騰によりガソリン代やクリーニング代などいろいろな部分で費用が嵩んで工面に苦労しており、そういったところからも、活動しづらい状況にも陥っていると

感じております。

なお、「ふるさとの祭り参加民俗芸能団体数」におきましては、令和５年度は数が伸びています。これは文化振興課の担当者の方々が熱心に進めてくださっているおかげだと思いますので、私の方からも、御礼申し上げたいと思います。

資料６ページの「市町村生涯学習講座受講者数」の令和５年度の数値が昨年度より若干下がっておりました。これに関して、郡山市の状況について話をしたいと思います。郡山市では公民館のデジタル化の推進が始まっており、何年か後には公民館の職員もデジタルやＳＮＳによる情報発信という流れになっていくと思いますが、ＳＤＧｓによるペーパーレス化が進められることと重なり、郡山市の公民館ではデジタル化よりも前にペーパーレス化のために、公民館の主な講座の情報も紙で発信するのではなく、ＳＮＳを使った募集の呼びかけに変わってしまいました。そのために、ＳＮＳに慣れていない中高年層が取り残される状況になっております。公民館も含めた生涯学習に一番関わって活動しているのは、中高年層が多いと感じておりますが、中高年層はＳＮＳを活用して講座情報を探したりすることはなかなかできない状況です。受講者数に、そういう影響が今後出てくるのではないかと思っています。実例として、私は郡山市湖南町で地域のおじいちゃん、おばあちゃん達と一緒に市の施設を使ったいろいろな活動に取り組んでおり、会としても情報発信も当然しておりますが、今までは施設からの紙を使った案内があり、活動募集が早い段階で定員が埋まっていた実情があったのですが、今年度から紙による案内がなくなってしまい、定員になるまでにすごく時間がかかる結果となってしまいました。デジタル技術の活用の促進やＳＤＧｓへの対応が進んでいるのですが、それらに取り残されてしまう世代や方々も結構多くいますので、その部分をもう少し丁寧に考えて対応していただけるとありがたいなと思っています。

【片野議長】

ありがとうございました。今ほど、デジタル化の問題も出ましたので、事務局でいかがでしょうか。

【文化振興課長】

御意見ありがとうございます。デジタル化やペーパーレス化によって、情報が届かない方も生じているとのお話については、改めて問題意識を持ち、これまでの新聞やテレビを使った広報なども行いながら、市町村や各団体などもいろいろな情報発信のツールを持っていますので、それらをうまく組み合わせながら、必要な方に情報が届くような方法を検討していきたいと思います。貴重な問題提起をいただきありがとうございました。

【片野議長】

どうもありがとうございました。では、杉浦委員、よろしくお願いいたします。

【杉浦委員】

11ページ「文化に接する機会の拡充」という施策で、県立美術館入館数等の指標が設けられており、こういう目標であれば全くその通りだとは思うのですが、人数だけを目標にしてしまいますと、美術館として今後進むべき道を間違えるかなと感想として感じたところであります。県展の青少年の参加者数など、数字だけで計りやすいものもあると思います。ここの指標が機会の拡充であれば、人数で見るしかないとは思いますが、一般の方に、人数が多かった、少なかっただけで評価されるのは、かわいそうで何か足りないというのが感想であります。例えば、昨年の亜欧堂田善の展覧会においては、展覧会業界の日本でのトップの賞である倫雅美術奨励賞というものを受賞した素晴らしい展覧会でありました。人数的にはそんなには入らなかったのですが、そういったところも、その他の美術館の評価に目を向けてほしいと思います。もちろん、機会の拡充であれば、入館者数の数字であるかとは思いますが、入館者数は増減があり、極端な話であれば、人気のある漫画家の展覧会を実施すれば、入館者数は増えますので、そのあたりも含め、文化振興を進行管理していく難しさを感じております。

【片野議長】

ありがとうございました。このテーマは、これまでもこの審議会で御指摘されていた点だと思います。人数だけで判断しきれないことは多くあり、その辺りを十分に勘案しながら取組内容をどのように評価するのかという点です。事務局でいかがでしょうか。

【文化振興課長】

今までも御意見をいただいておりますが、美術館だと、内部での展示だけではなく、館外で活動されているのもありますし、入館者などの数字だけではなく、内容も踏まえて評価もしていかなかればらないというのは、まさに御意見のとおりだと思いますので、評価にあたっては御意見を参考にさせていただきたいと思います。

【片野議長】

ありがとうございました。田仲委員、お願いいたします。

【田仲委員】

私の方から２点あります。１点目は、先ほどから出ている情報発信について、國分委員からはデジタル化、ペーパーレス化が進んでいて高齢者に情報が行き届かないという話がありましたが、逆に私からは若い世代に情報を届けるためにはやはりＳＮＳの活用は切り離せない、必要不可欠になってきていると思います。資料３７ページNO.20の声楽アンサンブルコンテストのところで、令和３年度からX（旧Twitter）を活用した広報をしているとあったのですが、気になったのは、運営の仕方がどのようになっているのか、誰が発信しているのかという点と、例えば、文化振興課が行っている事業のＳＮＳのアカウントがどれくらいあるのか、その手段がどのようなものなのか、また、それに関するフォロワー数、インプレッション数もわかれば、教えていただきたいと思いました。

最近、20 代、30 代の方々と話す機会があったのですが、今、何かのイベントをしていてもわざわざＨＰを見たりすることはなく、10 代 20 代はインスタ、30 代以降は Facebook、X（旧 Twitter）はやっている人、やらない人がいるようで、ターゲットによって使い分けが必要だとは思います。若い世代はインスタで流れてくるものを見るのが主流だということを最近知りました。取りに行くのではなく、流れてくるものをキャッチする、流れているものが溢れているので、インスタで検索して行く、ということを若い世代はやっているそうです。興味のある人は調べて行くということをするが、関心のない人に文化を届けるためには、流していく作業が必要になってくると思います。ペーパーレス化がどんどん推進されて、それによって弊害を受けざるを得ない人たちがいる一方で、チラシなんてもう見ないという世代も一定数いるようです。そういった中で、ＳＮＳをどのように活用していくのか、誰が何時に投稿するのか、具体的に落とし込んでいくのか、何かそういったことを事例があれば教えてほしいです。

２点目ですが、文化的な活動している人はたくさんいて、何かに所属している人もいらっしゃれば、草の根的な小さい活動なのだけれども大事な活動をしていらっしゃる人もいると思います。ネットワーク作りが大事だと思っていますが、何かに所属している人はそこのコーディネーターなり、役職、事務局なりが、人脈としてそこに集約されるのですが、なかなかフィードバックしえないところがあると思っています。草の根活動をしている人や、何かに所属をしていないで活動している人たちがネットワーク形成をできるような取組があれば教えていただきたい、もしないのであれば、それをどこかに組み込んでいただける可能性はあるのかお聞きしたいなと思いました。

【片野議長】

ありがとうございました。それでは、事務局からお願いいたします。

【文化振興課長】

１点目のＳＮＳの活用についてですが、文化振興課では、インスタではなく、X（旧 Twitter）、Facebook などで発信をしております。声楽アンサンブルコンテストやメディア芸術など、事業ごとに特設のサイトを設けて発信しております。職員が自ら行っている部分と業者が行っている部分があり、まだ模索しながらやっているところがありますので、しっかり情報が届くように工夫していきたいと思います。

２点目のネットワーク作りについてですが、コーディネートしていただける方々をどのように育て、確保していくかが、非常に重要だと感じておりまして、現在はそういった仕組みがありません。県文化センターでは今年度から新たに各団体で一体となってイベントをＰＲしたり、ネットワーク作りを始めたりしているところもありますので、文化センターの取組を参考にしていきながら、県としてもどのような方法があるのか検討していきたいと思います。

【片野議長】

ありがとうございました。次は、田村委員、お願いいたします。

【田村委員】

３ページ、県展の内訳として、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書となっておりますが、この委員を長年させていただいておりまして、写真部門がないことが問題になっていたと記憶しています。その点いかがでしょうか。大変、気になっております。

次に、県の文化センターの改修、例えば７ページでも話題になっていますが、センター自体の建て直しの要望がでていたと思います。新聞でも記事になっていたと記憶していますが、どのように考えているのでしょうか。

10 ページ、県立美術館の企画展・常設展開催というところの予算、数行下のゴッホ展に関わる部分として、先ほど説明していただきましたとおり、ここを別枠の予算で考えているとのことで、大変素晴らしいものがきて楽しみにしていますけれども、毎年の企画展・常設展の方の予算を続けてとっていただきたいとは思います。先ほど、杉浦委員、岡部委員からも話がありましたが、人数では計れないものというのがありました。人気なものには人がきます、人がきて、その次だと思います。私は、県立美術館に行ったことがない学生がいて、そういう学生を１回でも行かせようということをしておりますが、１回行った人が、その潜在的な来館者、行ってみたかったのだけれどという人が、次にも来館する、再訪を促すという活動もしております。素晴らしい展覧会によって人数もたくさんきてということは素晴らしいことですけれども、その後どうするのかということが問題であり、継続していくには、従来の企画展・常設展の充実が大切なのではないかと思います。

県のことではないとは思うのですが、市の教育委員会で、美術教育のある展覧会が人員不足や運営の大変さ、施設の関係もあって廃止になったということを思いますと、公的な機関がいろいろと支援していただければ良いなと思います。

また、例えば、伝統文化の継承や保護の話が何度か出ていますが、興味を持っている学生はおります。十分御承知なこととは思いますが、福島大学の地域未来デザインセンターが窓口となって、文化系の教員と連携をとるのはありなのではないかと思っております。

42 ページあたりの文化についての意識、自然や景観の保全、伝統の保全などについて、例えば絶滅危惧種の動物を保護した方がいいですかと聞かれたら、なんとなく「はい」と言う人が多くなると思います。それでは何をするのかにつながらないということがあると思います。それは、数の問題、実際どうするのかという問題との乖離があると思いました。福島県の方は、どちらというと、ずっと県内にいらっしゃるのではないかと思いますが、そうすると他県との差、他地域との差がわかりにくく、普通のことと思ってその良さがわからない。それをどうやって認識していくのか、それらを小さいときから教えていく、良さを認識し、情報を行き渡らせたらいいなと思います。その中で、発信の方法としてＳＮＳがあります。そこには、今までの話にありましたようにいろいろな問題がありますが、ＳＮＳは、広く、目の前にあってそのようなことがあるという周知の仕方ではなく、見つけて周知をしていくというものであり、それと同時に、人口減少の問題で、若い人は減っていく、生涯学習などの需要がある世代は増えていくとい

うことがありますので、やはり、発信の仕方、何も意識していなくても目にしてしまうみたいな発信の仕方、ＳＮＳの併用が大切だと感じたところです。

【片野議長】

ありがとうございました。事務局からコメント、お願いいたします。

【文化振興課長】

御質問に対して、コメントさせていただきます。

県展の写真部門については、運営委員会、小委員会の方で継続して検討しております。展示スペースの問題、予算の問題も含めて、新たな部門の追加は様々な観点から検討が必要ですので、関係機関の御意見を伺いながら、検討を進めてまいります。

次に文化センターの建替については、建て替えるとなりますと、近県の事例では、どのような施設にするか検討を始めて、さらに建設して運用を開始するまで、相当の期間、どこも 10 年以上は要しており、また、その費用も 200 億から 300 億の金額になってまいります。それまでの間、文化センターの大ホールをそのままにしてはおけませんので、まずは今の施設を修繕して、今の施設をきちんと直して使っていく、建替については、いずれ老朽化が進んでいくと思いますので、その時は検討する必要があると思います。

その他の御意見については、今後の参考にさせていただきたいと思います。

【片野議長】

ありがとうございました。古谷委員、お願いいたします。

【古谷委員】

１つだけお願いをしたいことがあります。39 ページにある文化振興の地域づくりの分野についてのお願いであります。私は浜通りの楢葉町に移住した移住者で、浜通りの生活者としての視点と、業務としては、こちらの地で、シェアハウスと食堂かしわやという主に移住者が暮らすためのシェアハウス兼コミュニティ拠点を運営しており、そういった立場上の視点からのお願いなのですが、この地域では、震災前は文化を感じられることが少なく、震災後にいろいろな経緯を経て、外から関わる方が増えた今、やっと文化的なものを発信できるようになったり、そういった関わりの中でこれまでは言えなかった文化について語れるようになったりしたと地元の方が話している機会がありました。私も、この１年間の交流の中で、文化の芽生えを感じられる機会がありました。例えば、学生のインターンがファッションショーをやりたいと言い出したり、地域に古く伝わる文化と掛け合わせてこんなことをやりたいと言い出したりと、芽生えというものがいくつかありました。資料の中の福島発酵ツーリズムを例に出してお願いをしたいのですが、発酵とか、文化的なものをツーリズムに磨き上げる際に地域特有のものすごくマニアックな部分にまで磨き上げないと、表面的なもので終わってしまう例もあるのではないかと思いまして、この浜通りでも育ち始めようとしている文化の芽生えを掘り起こしたり磨き上げたりする役割の人が地元に根付いた状態でいないと、どの県でもあ

り得る発信の仕方になってしまいかねないと思います。私も、この地域で出会ってその発信をやっている中で、福島だからこの発酵が素晴らしい、楢葉町だからこの発酵が面白いとか、外の方に見える形にするのは非常に難しく、そういった部分をサポートできるコーディネーターとか、その地域ならではのことを理解した上で磨き上げてくれる伴走者が必要だと自分も思っております。浜通りではそういった芽生えが起きているところなので、そういった文化を磨き上げてくれる伴走者となるような方を育てるとか、少し掘り起こしてくれる取組をやってくれると嬉しいというお願いです。

【片野議長】

ありがとうございました。矢部委員、続けて、お願いいたします。

【矢部委員】

人口減少社会において、文化の役割、位置づけをしっかり考えた時に文化の主体性が重要だと思っておりました。地域づくりをやっている観点から受け身でサービスを待っている状態では人口減少社会においてはいろいろなことが停滞していくということが間違いなく発生していきます。その上でいかに主体的に自ら地域を作っていく、地域の文化を高めていく人の数が増えていかなければならないと思っています。特に、県民性として受け身の県民性が強いと思っているところがありまして、全体的な取組として自立性をもって主体的に表現をしていくという人が増えていくような流れを意識するべきではないかと思っています。指標についてですが、入館者数だけでは、それで文化的な土壌が肥えてきているかのようなことはわかりにくいと思います。質的なものの向上、質的指標と言いますが、インプットの機会が多いということ、例えば、美術館で鑑賞するとか、コンサートを鑑賞するとかですが、そしてその後どうするのかが非常に大事で、アウトプットを重要視していくことが必要だと思います。計画の全体の評価の中で、インプットに関する予算付け、アウトプットに関する予算付けで整理していくと、バランスが良いのか悪いのかも見えてくると感じました。

子どもたちの文化活動に関してですが、私が住んでいる町だと中学生から部活動参加者が、圧倒的に文化部が増え、ここ近年、スポーツをやる人が減ってきています。ただし、これまでの社会的な状況としてスポーツをやってきた人が圧倒的に多いので指導者はスポーツの方が多く、その一方で文化となると解像度が下がって、スポーツは種目ごとに部活があるのに、文化は文化部でひとくくりにされ、解像度が低い状況があります。その背景として指導者が少ないというのがあります。中学校の美術教員も探さないとなかなか見つからないという状況も起こっています。人材のネットワークであったり、対話型鑑賞であったり、子どもたちが主体的に文化活動に対して自分の考え方をアプローチできるような取組をもっと支援していくべきと思っています。これまでの社会が作り上げてきた人材とこれからの社会に対応できる人材とのバランスにかなりの差が大きいのではないか、そういったところをどうサポートしていくのかが鍵ではないかと思っています。具体的な例で言うと、高齢者に情報が届かない問題と、若者に情報を届けたい問題が常にあって、私が住む地域は７０％が高齢者なので、紙じゃないと届かないの

ですが、高齢者と若者、どちらが社会弱者かとしたら、若者の方であると思います。この点を考えたときに高齢者サービスを増やすよりも、高齢者に情報を届けるコミュニケーション力を高める若い人材を育てるような形で、高齢者に情報を届けるようなことを考えるとか、若い人に投資するのですが、その若い人たちが高齢者に情報を届けるようなコミュニケーション力を高める形で考えていく必要があると思います。受け身でいて情報が届かないという人たちがいる、ありとあらゆる媒体で情報を発信しているけれども「そんなの知らなかった」と言われることが多いことは皆さんも感じていると思います。なぜなら自分の興味があるものしか見ない、受け身であることが大きな課題であり、自立性、主体性ということを重視して、主体的である、自立的であるということに関して県としてサポートして、文化の方向性を持って行くという意志が、県全体として表現できる、予算付け、方向性、指標となっていったら、もう少し雰囲気が変わるのではないかと思います。

【片野議長】

ありがとうございました。それでは、二人の委員の意見に、コメントをお願いいたします。

【文化振興課長】

二人の委員からの新しい視点での御意見、ありがとうございます。お二人の御意見にあった、人口が減少する中で、今後の文化の担い手をいかに確保していくのかが大事だと思っております。そのためには、まず青少年の方々に文化に関心をもって関わっていく、担っていくということを学校と連携しながら、主体的に学べるような教育を含めて、さらに進めていかなくてはいけないと思っています。また、高齢者の方々も含めて文化に関わっていただいて盛り上げていく担い手を育てる、確保していくために、それぞれの地域でコーディネート役を務めていただく方、その地域の振興、地域の良さも含めて発信できるようなリーダー役が重要になってきているということを皆様の御意見を聞いて思いましたので、今後、関係の方々と、どんなことができるか考えていきたいと思います。

【片野議長】

どうもありがとうございました。私からも一言、お話させていただきます。

今、話にありましたが、非常に総合的なことですが、人口減の問題ということがこの審議会ばかりではないとは思いますが、非常に大きな力で社会の様々な出来事を左右してきているというのは、いろいろな場面でよく見えてきていると思います。この点をどのように文化という部分と上手く関係づけながら、つじつまとして文化活動が盛んになりましたというだけの問題だけではなくて、この人口減というものが持っている内容的なことをまた協議していくこともかなり必要だと思いました。

毎回出ていますように、人数を文化活動のバロメーターにするというのはどうなのでしょうかと、必ず毎回御指摘されるところです。これについても、なかなかこれが優れ

ているという指標はないのかもしれませんが、この点につきましても人口減の問題と同様にどういうふうに指標を、どのようにこの問題を扱っているのかという指標について、あえて考えてみるということも、繰り返し検討していく必要があると思います。

また、デジタル問題も、急にいろいろなところで指摘されるようになりました。この辺りにつきましても研究すると申しましょうか、どういうことが良いのか、もう少し考えてみたらどうだろうかと思います。

それでは、今私も意見を述べましたので、あと他の委員の皆様からここで話しておきたいということがありましたら、よろしくお願いします。いかがでしょうか。

無いようですので、今日の会議は終了させていただきたいと思います。

それでは、最後に、事務局の方から説明がありましたらお願いします。

【文化振興課長】

熱心に御審議していただきありがとうございました。会長からも話がありましたように時間に限りがあって、発言し足りない方もいらっしゃるかと思います。もし御意見、御質問がありましたら、この会議の後にメールやＦＡＸなどでお問い合わせいただくよう、よろしくお願いします。

それから、チラシをお配りしましたが、３月には、声楽アンサンブルコンテスト全国大会が福島市で開催予定となっておりますので、お時間がありましたら足を運んでいただければと思います。事務局からは以上です。

【片野議長】

どうもありがとうございました。本日の審議はこれで終了いたします。ご協力ありがとうございました。

【文化振興課主幹】

片野会長ありがとうございました。それでは、閉会に当たり、文化スポーツ局長から御挨拶申し上げます。

【文化スポーツ局長】

委員の皆様には長時間わたりまして貴重な御意見ありがとうございました。

委員の皆様からで出た人口減少、これは避けては通れない課題でありますし、ＡＩを含めてデジタル技術の対応はいろいろな分野で検討しなければならないことなのかなと思います。そうした中で文化のあり方、もしくは地域での文化の継承をどうしていくか、というのを頭に入れながら、今後の取組について検討していきたいと思っておりますので、今後とも委員の皆様には引き続き御指導、御協力よろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

【文化振興課主幹】

以上をもちまして、令和５年度文化振興審議会を終了します。長時間にわたり、熱心

に審議いただき、誠にありがとうございました。

（6） 閉会